

## 初の実験授業「法科大学院」へ始動



04年の法科大学院設置を目指し、初めの実験授業(専修大学法科大学院設置準備委員会主催)が10月5日、神田キャンパスで学生ら約100人が参加して行われた。法律的な問題を効率的に理解してもらうため、従来の授業とは趣きを変え、実務家による導入授業から講義を展開。討論も活発に行われ、双方向授業を旨とする法科大学院にふさわしい実験授業となった。

授業に先立ち日高義博法科大学院設置準備委員(法学部長)が開会のあいさつを行い「皆さんから活発に意見を出していただき、実りある授業にしていきたい」と学生に呼びかけた。

この日の実験授業は、法科大学院の法学未修者1年次生が対象。最初の導入授業では、傷害事件の刑事裁判を事案にし、その概要を明らかにしながら進められ「被告人は有罪か無罪か」を討論。弁護士として活躍中の宮岡孝之(昭54法)、杉山博亮(昭61法)、藤代浩則(昭63法)、井上泰(平2法)、高橋温(平5法)のOB5氏が進行役や被告、弁護士、検察官などを務めた。その後、学生の一部は講義を受講すべく別室で予習し、他の学生は引き続き討論に参加。その上で「正当防衛」をテーマにした講義が日高教授によって行われた。

全員討論会では当日の反省を含め改善点、教育方法等について意見が出された。参加学生からは「どうしても抽象的に感じてしまう従来の講義と違い、導入授業が行われたことによって理解の幅が広がった」などの感想が寄せられ好評だった。

なお本学の学生、大学院生、教職員を対象に法科大学院学内説明会が次の通り開かれる。

【生田校舎】日時＝10月18日(金)12時15分～：会場＝351号教室

【神田校舎】日時＝10月21日(月)12時15分～：会場＝303号教室

※問い合わせ＝法科大学院設置事務局(03-3265-6891)

[10月15日/ニュース専修1面]

## 出牛学長 モンゴル国立大60周年を祝う



出牛正芳学長は、国際交流協定校で創立60周年を迎えたモンゴル国立大学の記念行事（9月25～28日、ウランバートル）に出席した。ガンツォグ・ツェルンソツノム学長らと懇談し60周年を祝福、今後の友好関係を確認した。

式典には、本学との協定校でもある檀国大学（韓国）、マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）の代表者も出席していた。

〔10月15日/ニュース専修1面〕

## キャンパス探訪〈4〉建学の心を訪ねて



「相馬永胤先生像」

生田校舎2号館アーケードに、大理石の「相馬永胤先生」と刻まれた胸像がある＝写真。相馬は本学設計の中心的役割を果たし、横浜正金銀行（現東京三菱銀行）頭取を務めた財界重鎮だった。前回触れたが、永胤は旧彦根藩士で、旧藩士子弟を早稲田の私邸で「書生」としても面倒を見ていた。

その一人、東京高商（一橋大学）を出て三井物産取締役をしていた小田柿捨次郎が寄贈した。1920（大正9）年、永胤古希の祝いに小田柿が贈ったが、初め永胤は嫌ったようだが、その純粋な祝いを受けた。

山縣有朋、大隈重信像などを作った高名なイタリア人彫刻家オティリオ・ペッシの作品である。永胤の経歴・業績など一切刻まれていない。相馬家から大学に寄贈され生田に建つが、晩年の永胤の、なんとさわやかな表情であることか。

〔10月15日/ニュース専修1面〕

[【ニュース専修ウェブ版トップに戻る】](#)